基本撮影 第2章

基本的な撮影 38
操作の流れ 38
電源を入れる 39
記録先を選択する 40
画質モードを選択する 41
記録モードを選択する 42
被写体の大きさを決める（ズーム） 43
被写体の位置を確認する 45
撮影する 46

基本的な撮影

撮影操作の流れと、基本的な撮影方法について説明します。

操作の流れ

基本的な撮影方法は、次のような流れになります。

電源を入れる

カメラの電源スイッチを押して電源を入れ、モードダイヤルを［📷］に合わせます。→ P.39

記録先を選択する

内蔵メモリー（IN）またはスマートメディア（CARD）を選択します。→P.40

画質モードを選択する

７種類（1800 × 1200/F/N/E・900 × 600/F/N/E・1280 × 960〈130 万画素〉）の画質モードから選択します。→ P.41

記録モードを選択する

３種類（▭・A・▭）の記録モードから選択します。→ P.42

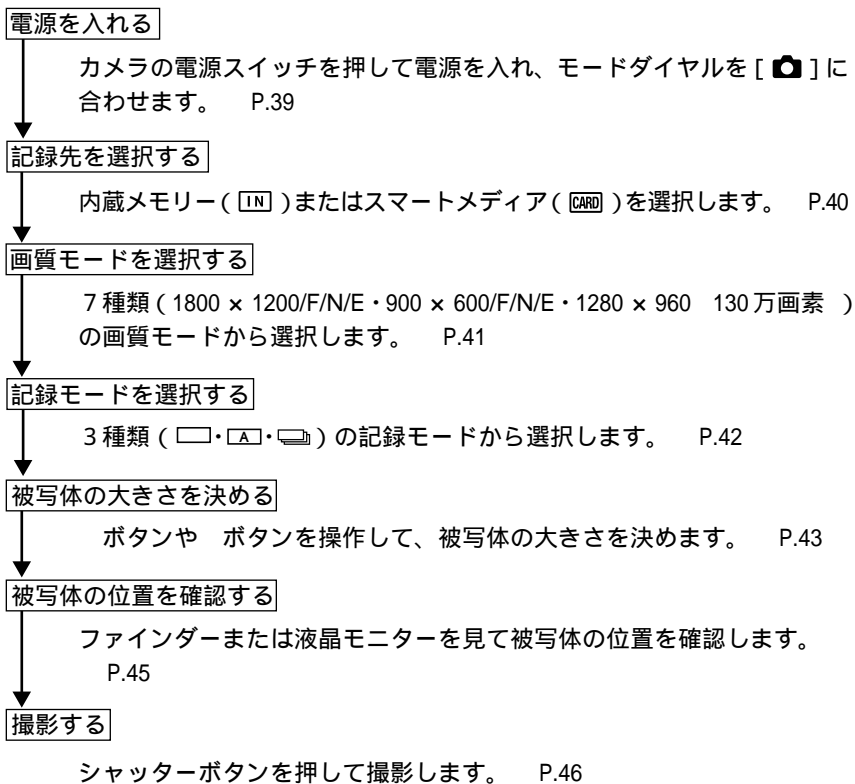
被写体の大きさを決める

▼ボタンや▲ボタンを操作して、被写体の大きさを決めます。→ P.43

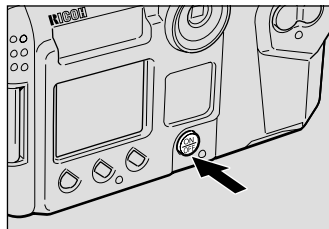
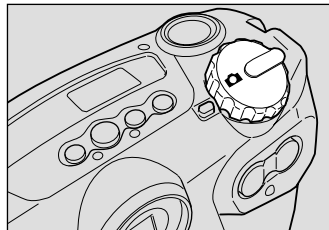
被写体の位置を確認する

ファインダーまたは液晶モニターを見て被写体の位置を確認します。→ P.45

撮影する

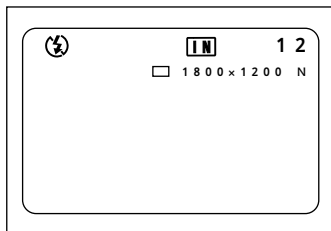
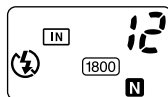
シャッターボタンを押して撮影します。→ P.46

電源を入れる

カメラの電源スイッチを押して、電源のオン・オフを切り替えます。

❶ 電源スイッチを押し、電源を入れます。

❷ モードダイヤルを［📷］に合わせます。

液晶パネルや液晶モニターに記録情報が表示されます。

●液晶モニターの表示について

液晶モニターの画面表示は、DISPLAYボタンで切り替ます。DISPLAYボタンを押すと画面表示されなくなり、再度DISPLAYボタンを押すと画面表示されます。

電源を入れたときに、画面表示されないよう設定できます。→P.107「液晶モニターの画面表示を変更する」

オートパワーオフについて

電源がオンのとき、設定された時間カメラの操作（ボタンやスイッチの操作）をしないと、節電のため「オートパワーオフ」が働き電源が切れます。再びお使いになるときは、電源を再投入してください。なお、ACアダプター使用時はオートパワーオフは機能しません。

オートパワーオフの設定時間を変更できます。→P.101「オートパワーオフの設定を変更する」

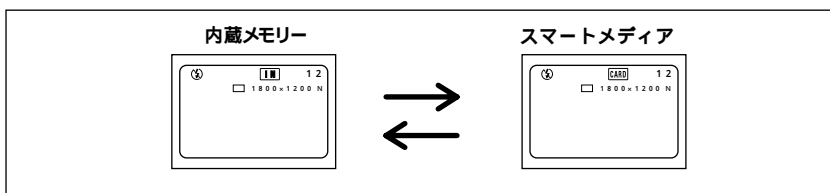
補足

・モード保持機能が働いている場合、「フラッシュ」「露出補正」「ホワイトバランス」「記録モード」「日付入れ撮影」「LANGUAGE」「カード/内蔵」「Sモード」「フォーカス」「ソフトモード」「オートブラケット」の各設定内容は、電源が切れる直前の設定が保持されます。→P.102「カメラの設定内容を記憶する」

記録先を選択する

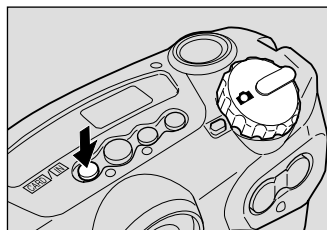
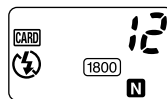
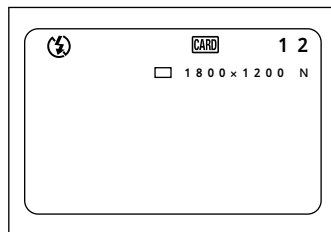
撮影したファイルを、カメラ本体の内蔵メモリーに記録するか、セットしたスマートメディアに記録するかを選択します。

■モード表示の移り変わり

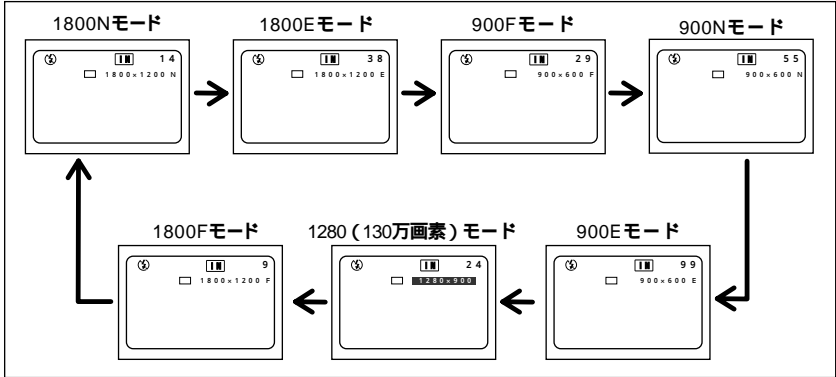
記録先を切り替えると、次のように表示されます。

＊スマートメディアがセットされているとCARDが表示されます。

■記録先の選択

❶ CARD/INボタンを押して、記録先（IN・CARD）を選びます。

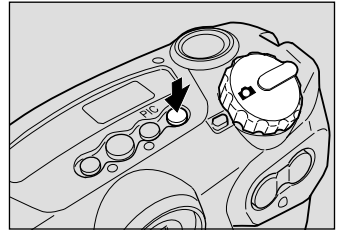
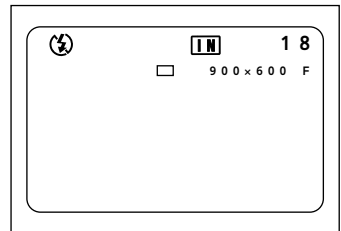
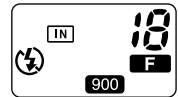
CARD/IN ボタンを押すごとに、記録先が切り替わります。

液晶パネルやモニターに選択した記録先が表示されます。

補足 ・スマートメディアがセットされていると、電源を入れたときにCARDマークが表示されます。内蔵メモリーにするときは、モード保持を設定してください。→P.102「カメラの設定内容を記憶する」

画質モードを選択する

このカメラでは、7種類の画質モードがあります。用途にあわせて切り替えてお使いください。

■モード表示の移り変わり

＊画質モードを切り替えると記録枚数が変わります。
＊初期設定は1800 Nになっています。

■画質モードの選択

❶ PIC ボタンを押して、画質モードを選びます。

PICボタンを押すごとに、画質モードが切り替わります。

補足
・液晶パネルや液晶モニターに選択した画質モードが表示されます。ただし、1280（130万画素）モードは、液晶パネルに表示されません。
・1280（130万画素）モードを設定した場合、記録時間が約20秒かかります。

●データの目安

画質モード	圧縮率	データサイズ
1800Fモード	1/5	約813KB/画面
1800Nモード	1/8	約410KB/画面
1800Eモード	1/18	約246KB/画面
1280（130万画素）モード	1/8	約330KB/画面

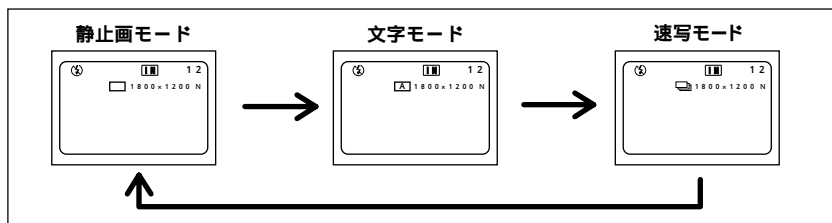
画質モード	圧縮率	データサイズ
900Fモード	1/4	約276KB/画面
900Nモード	1/8	約141KB/画面
900Eモード	1/16	約 74KB/画面

補足
・画素数は1792 × 1200および896 × 600です。なお本書および本製品では、画素数を1800 × 1200、900 × 600と表記しています。
・画質モード別の記録可能枚数については、「記録枚数について（P.128）」をご覧ください。

記録モードを選択する

このカメラでは、３種類（□・A・▭）の記録モードがあります。用途に合わせて記録モードを切り替えてお使いください。

■モード表示の移り変わり

記録モードを切り替えると、モード表示は次のように表示されます。

＊初期設定は□になっています。

●静止画モード

シャッターボタンを押すと１コマ撮影できます。撮影した画像は、１コマごとに記録されます。

●文字モード

文字を記録します。文字をきれいに記録できるように、黒い部分をはっきり黒くし、周りの色合いを緩和させて記録します。撮影した画像は、１コマごとに記録されます。

●速写モード

シャッターボタンを押している間、約１秒に１コマの間隔で１枚または連続して撮影できます。撮影した画像は、いったんカメラ内部に保存されるため、撮影間隔が短く、続けて次の撮影が行えます。

補足 ・記録モードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。
→ P.102「カメラの設定内容を記憶する」

■記録モードの選択

❶モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENUボタンを押します。

記録メニューが表示されます。

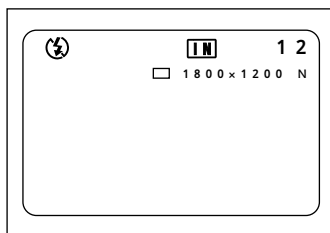
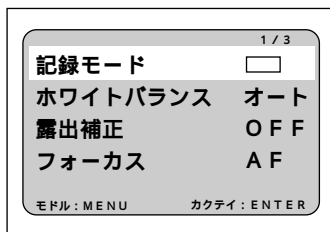
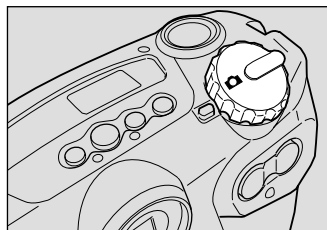
補足 ・操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。

❷▼ボタンや▲ボタンを押して［記録モード］を選びます。

❸ENTER ボタンを押して、記録モード（□・A・□）を選びます。

ENTER ボタンを押すごとに、記録モードが切り替わります。

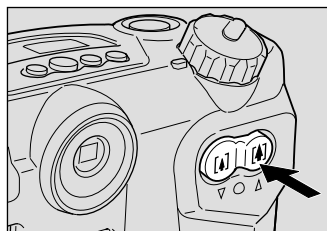
❹MENUボタンを押して、記録メニューを終了します。

液晶モニターに選択した記録モードが表示されます。

被写体の大きさを決める（ズーム）

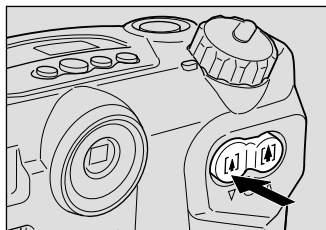
ズーム（▼▲）ボタンを押すと、撮る人は被写体までの距離を変えずに被写体の大きさを変えることができます（35mm 換算で 38 ～ 114mm）。

■被写体を大きくする

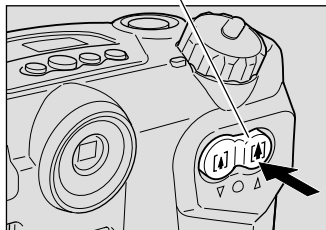
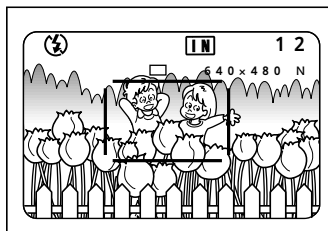
❶▲（[♠]）ボタンを押します。

被写体が大きくなり（望遠）、液晶モニターにはズームバーが表示されます。
▲ボタンを押して、被写体の大きさを調節します。

■被写体を小さくする

❶ ▼（[♠]）ボタンを押します。

被写体が小さくなり（広角）、液晶モニターにはズームバーが表示されます。
▼ボタンを押して、被写体の大きさを調節します。

■デジタルズーム機能について

２秒以上押し続ける

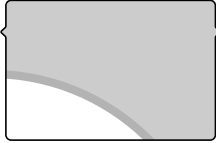
記録モードが静止画や文字の場合は、最も望遠側になっているときに、さらに２秒以上▲（[♠]）ボタンを押し続けると、デジタルズームが働き、望遠効果のある撮影ができます。
デジタルズームを解除するときは、▼（[♠]）ボタンを押します。

記録時は、右のように枠が現れます。この範囲がデジタルズームで撮影されます。再生時は、通常に撮影したファイルと同様に再生されます。

補足
・デジタルズームは、次の場合は使用できません。
　記録モードが速写のとき
　画質モードが 1280（130 万画素）モードのとき
　液晶モニターが画面表示されていないとき
・液晶モニターが画面表示されいないときは、DISPLAY ボタンを押して画面表示してください。
・デジタルズームで撮影すると、画素数はすべて 640 × 480 で記録されます。

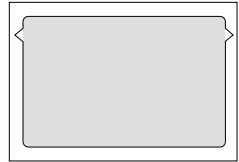
被写体の位置を確認する

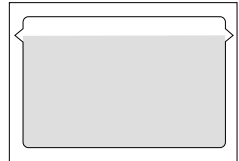
ファインダーや液晶モニターを見ながら被写体の位置を確認します。

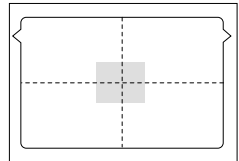
■ファインダーの見かた

ファインダーをのぞいて被写体をとらえます。

・広角側で撮影する場合、左下にレンズの一部（ケラレ）が見えますが、撮影画像には支障はありません。

●撮影範囲枠

撮影したいものをファインダーの中におさめてください。

●近距離補正枠

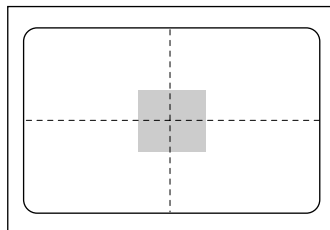
被写体までの距離が約40cm以内の場合、撮影したいものをこの範囲におさめてください。

●オートフォーカス範囲

ピント合わせが行われる範囲です。
ファインダーの中央部にあり、おおよそ図のような範囲です。

■液晶モニターの見かた

液晶モニターを見ながら被写体をとらえます。

●撮影範囲枠

撮影したいものを液晶モニターの中におさめてください。

●オートフォーカス範囲
ピント合わせが行われる範囲です。
液晶モニターの中央部にあり、おおよそ図のような範囲です。

補足 ・説明のためファインダーや液晶モニター内を点線とアミかけで表現しています。実際には、点線やアミかけの表示はありません。

撮影する

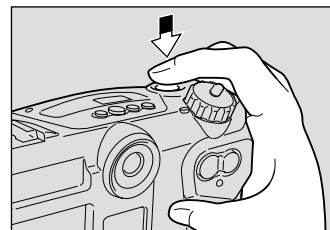
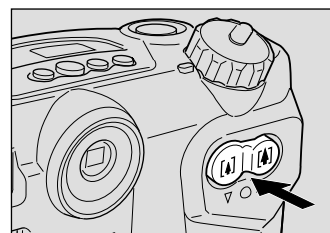
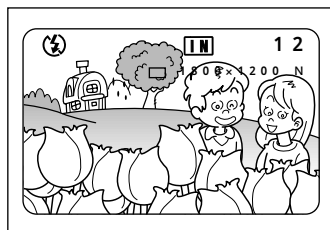
ここでは、基本的な撮影方法を説明します。カメラが動かないように正しく構えてください。

❶ 撮影したいものにカメラを向けます。
被写体までの距離が約40cmより近い距離の撮影では、広角側（[♠]）にしてマクロ撮影してください。

参照 P.71「マクロ撮影のしかた（接写）」

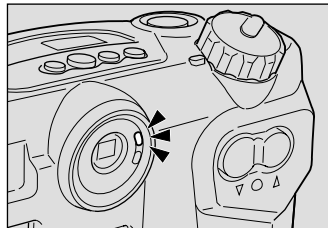
❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して、被写体の大きさを決めます。

参照 P.43「被写体の大きさを決める（ズーム）」
P.45「被写体の位置を確認する」

❸ 指の腹でシャッターボタンを軽く押します。
シャッターボタンは2段階になっています。軽く押すと（半押し状態）、オートフォーカスが作動し、ピント合わせが行われます。
オートフォーカス作動中は、手ブレ がおきな

いようしっかりと固定してください。

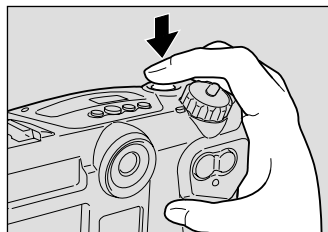
被写体にピントが合うとオートフォーカスランプ（緑）が点灯します。この時点でピント、露出、およびホワイトバランスが固定されます。

●フラッシュランプが点灯したとき

暗い所を撮影するときなど、フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを軽く押したときにフラッシュランプ（赤）が点灯します。
フラッシュ充電中はフラッシュランプが点滅し、液晶モニターの表示が消えます。このときは撮影できません。

補足
- オートフォーカスランプが点滅したときはピントが合いません。フォーカスロックで撮影してください。→P.60「フォーカスロックで撮影する」
- 「スローシャッター」と表示されたときは、手ブレすることが多いので、フラッシュ発光またはSモード撮影することをお勧めします。→P.52「フラッシュモードの変更」、P.69「Sモード撮影のしかた」

❹ そのまま指を離さずに、シャッターボタンを静かに押しきります。

「ピッ」というブザー音が鳴り、撮影されます。

補足
- ブザー音が鳴る前にカメラを動かすと、手ブレすることがあります。
- 記録に失敗したときは「ピピピピピッ」というブザー音が鳴ります。もう一度撮影してください。

●静止画モード（▭）/文字モード（Ａ）のとき

シャッターボタンを押し切ると撮影され、記録されます。
液晶モニターに撮影画像を表示するよう設定しているときは、撮影画像の表示後、記録されます。このとき▼ボタンや▲ボタンを押すと、すぐに記録を開始できます。→P.106「画像確認時間を変更する」

液晶モニターに撮影画像が表示されている間は、MENUボタンを押すと記録を中止できます。記録中断のメッセージが表示されるので、ENTERボタンを押します。

記録を中断しますか？

決定：ENTER
取消：MENU

●速写モード（▭）のとき

シャッターボタンを押している間、約1秒ごとに1コマ撮影されます。撮影画像はいったんカメラ内部に保存され、撮影が終了した時点で記録されます。
撮影の途中でシャッターボタンを離すと撮影は停止します。そこまでの撮影画像はカメラ内部に保存されており、再度シャッターボタンを押すと残り枚数が撮影されます。カメラ内部に保存された撮影画像は、次のときに記録されます。

・MENU ボタン、PIC ボタン、CARD/IN ボタンを押したとき
・モードダイヤルを回したとき
・電源をオフにしたとき（オートフォーカスランプ点滅）
・撮影後、30 秒間カメラの操作をしないとき
・撮影可能枚数が 0 のとき / 連続撮影可能枚数を撮影したとき
・▭マークが液晶モニターに表示されたとき

・撮影した画像がカメラ内部のメモリーにあるとき、または記録中は、電池ぶたや側面カバー、カードカバーを開けたり、AC アダプターを取り外さないでください。

・電源のオン / オフ、モードダイヤルの切り替え、画質モードの切り替えを行うと、残撮影可能枚数が増えることがあります。
・文字モードではフラッシュは発光しません。
・速写モードの場合、画質モードによって、連続撮影できる最大枚数は次のようになります。

画素数	F モード	N モード	E モード
1800 ×1200	3枚	3枚	8枚
900 ×600	7枚	14枚	29枚

＊1回に連続して撮影できる最大枚数です。スマートメディアや内蔵メモリーの残枚数によって、続けて連続して撮影できます。

・ファイル名の合計が 9999 枚になった場合は、速写モードでは撮影できません。記録先のスマートメディアまたは内蔵メモリーをフォーマットしてから撮影してください。
・1280（130 万画素）モードでは、速写撮影はできません。

長時間ご使用になる場合

カメラの電源がオンのとき、設定された時間カメラの操作（ボタンやスイッチの操作）をしないと、「オートパワーオフ」が働き、電源が切れます。撮影するまでに時間がかかる場合は、オートパワーオフが働かないように設定してください。また、長時間使用するときは、予備の電池または AC アダプター（別売り）を用意してください。
→ P.101「オートパワーオフの設定を変更する」

■ピントの合いにくい被写体

次のような被写体は、ピントが合わせられないことがあります。

・コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
・横線だけで、凹凸もないもの
・動きの速いもの
・低輝度（暗いところ）のもの
・強い逆光および反射光があるもの
・蛍光灯などのちらつきのあるもの

このような被写体を撮影するときは､写したい被写体と同じ距離にある違う被写体にピントを固定してから撮影してください。→P.60「フォーカスロックで撮影する」、P.61「フォーカスモードで撮影する」